

2026.6.11 (木)
第 46 回例会
(通算3855回)

2025-2026 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「笑顔と誇りを胸に、挑戦するロータリー」

会 長 荒井 剛
副 会 長 池田 一己
幹 事 横田 英喜
編集責任者 クラブ会報・雑誌・公共イメージ委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 三ッ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2025-2026 年度
国際ロータリーテーマ

『よいことのために 手を取りあおう』
UNITE FOR GOOD

2025-2026 年度
RI 会長 フランチェスコ・アレツツォ
第 2500 地区ガバナー
佐渡 正幸 (釧路北 RC)

本日のプログラム 講師例会「釧路市の教育」(プログラム委員会)

次週例会 一年を振り返って (三役・四大委員長) (理事会)

■ロータリーソング：四つのテスト ■ソングリーダー：山口 尚兵君

■会員数 107 名

■ビジター

■ゲスト 釧路市地域協働本部 森 敏隆様・鳥取小地域学校協働活動推進員 大越 祥子様

会長の時間 荒井 剛会長



皆さん、こんにちは。今日もすごい天気が良くて朝からラッキーでした。バードウォッチングのために春採湖に朝 5 時半に

いたところ、「オオジシギ」と「ノゴマ」を見ることができました。興味がない方からすると、なんのことかと思うかもしれませんが、私にとってはラッキーでした。

今日は、私の仕事にも関わる少し真面目な話をさせていただきたいと思います。

今の国会で、再審法改正ですごい審議がされています。再審法というのは、刑事事件で、一審、二審、最高裁といって判決が確定した後も、実は無実じゃないかなという証拠があったら「もう 1 回やり直してくれ」と求めるのが再審です。この再審法は 77 年間ずっと改正されてないのですが、この国会で改正されようとしております。

どういうところが改正されるべきなのか、いろいろ問題はあるのですが、そのこと自体に触れるのではなくて、この再審法改正の話をするに当たっては、どうしても袴田事件という過去の事件について触れることになると思います。袴田事件、おそらくテレビ等で、新聞等で見聞きしたことはあると思います。

ちょうど 60 年前です。1966 年の 6 月 30 日、静岡で、

一家 4 人が放火されて殺害されるという事件が起きました。味噌を製造する会社の家族だったのですけども。その従業員だった袴田巖さん、元プロボクサーなのですけども、この方が犯人じゃないかということで逮捕されました。

それから、裁判を経て 2 年後に死刑判決。本人は無罪をずっと主張しましたが、死刑判決になりました。死刑判決が確定したのですけども、ずっとその間、無罪を主張していて、弁護団が組まれて、再審請求をして、2 年ぐらい前にようやく再審の結果、無罪が確定されています。この話自体は、多くの新聞などで取り上げられています。

この内容もいろいろ喋ろうと思ったらいくらでも喋れるのですけども、一点、その有罪になった決め手の話があるのですが。

血痕がついた 5 点の衣服が見つかったと。それが最終的に決め手になったのですけども、この 5 点の服は犯行直後、すぐ見つかったのではなくて、事件から 1 年後に現場からその味噌樽に浸かっていたというところから出てきて、それが決め手になったのが当時の有罪判決の決め手でした。

ただし、その 5 点の服の写真が出ていなかったのです。その後、再審請求をして、再審の手続きの中で検察側から出てきた証拠を見ると、その写真が出てきて。そこで、1 年間、みそ樽に漬けられた血痕付の服がこんなに真っ白な訳ないでしょうと。実際に実験をするわけですね。1 年か 2 年間かけて。そうすると、もう全然色が違うということで、おかしいじゃないかという

ところが今度は決め手となって、「無罪です」ということでひっくり返ったと。

最高裁の判決もすごい憤りに満ちた内容です。これは警察が証拠を捏造したというところを認定した上で無罪になっています。

こういう話をいろいろテレビでやっているのですが、もうひとつ、お話ししたいことが実はあります。刑事裁判ですので、特に、死刑事件となると3人の裁判官が判断するのです。その当時の裁判官の3人のうちの1人の話です。お名前も全部わかっているのですけれど、熊本裁判官です。この方は聞いたことありますか。この方は30歳で当時、裁判を担当して一番若かったので、判決を起案する係なのです。いろいろな事件を見て、この方は実は無罪という心証を抱いていたのですけれども、上の裁判官2人と話をして、結局、説得できずに死刑判決を書く羽目になりました。自分で無罪判決を書いたのを一旦撤回して、死刑判決を書いたのです。

この方、その判決を出した後、半年後に裁判官を辞めているのです。とても良心に耐えられないということで辞めて、それからずっと我慢していたのですけれども、弁護士になって弁護士も辞めるころに、もう最後のほうに、「実は袴田事件のとき私は無罪を思っていた。でも上の2人には説得できずに、死刑判決を書いてしまった。袴田さん、袴田さんのお姉さんに謝罪したい」とマスコミにも言って、一時期それで注目されていたのです。

その方はもう亡くなってしまったのですけれども。この熊本さんの人生とかを書いた本もありますし、この袴田事件、この熊本裁判官を描いた映画もあるのです。『BOX 袴田事件 命とは』という映画です。この映画の中で熊本裁判官役を演じていたのは萩原聖人さん。多分ご存知の方いると思うのですけれども、彼が演じているのです。私もこの映画を見ていたのですけれども、非常に映画としても素晴らしいものです。袴田さん事件、袴田さんがどういう気持ちで死刑判決後を過ごしていたかもそうですし、熊本裁判官がどういう思いで裁判をしたのかという過程も書かれています。だけど、彼がもっと早く言っていれば、告白していれば、もっと早くもしかしたら無罪判決になっていたかもしれません。

そのときに思ったのは、本人は無罪と思っていたにも関わらず、死刑判決を書かざるを得なかった。どういう思いで書いていたのかなと。彼にとっての真実とは何だったのだろうかなど。

この四つのテストで、「真実かどうか」というのがありますけれども、自分だったらどうなのかなと。自分は無罪だと思っているけれども、他の2人に「違う、違う」と言われたときに自分は果たして無罪判決をそのまま書けるのだろうか、ということを思ったという話です。

再審法の改正がどうなるかはありますけれども、袴田事件が背景にあることを少しお伝えしたくてお話をさせていただきました。

以上です。

幹事報告 横田 英喜幹事

幹事報告をさせていただきます。先週土曜日、6月6日に親睦活動委員会によって野遊会を開催させていただきました。参加された皆さま、準備していただいた親睦活動委員会の皆さま、ありがとうございます。

荒井年度はあと2回の例会で終わりになります。パーソナルボックスに書類とかある皆さまは、できれば今日の機会にお持ち帰りいただければと思います。よろしく願いいたします。

プログラム委員会 藤井 敬亮委員長

皆さん、こんにちは。プログラム委員会藤井です。本日がプログラム委員会最後の仕事です。今まで私は地域社会と、そしてロータリーそれぞれの個人また企業が、どういった形で地域に貢献できるか、つながることができるかを中心として、プログラムを組んでまいりました。本日は、釧路市でどのような地域教育を実践しているか、そして結果を残しているか、そういうところをわれわれの足元である釧路市の立場というものをご紹介していただきたくお呼びいたしました。時間もございませんので、はじめに、森敏隆様、どうぞよろしくお願いいたします。



釧路市地域学校協働本部

統括的な協働活動推進員 森 敏隆様



皆さん、こんにちは。お昼の後ですみません。もう少し袴田事件のことを聞きたかったのですけれども。堅い話になってしま

うかもしれません。私からは、前半の10分くらいで今の教育の動向をお話させていただきまして、後半で推進委員の大越さんから、具体的に鳥取地区の実践についてお話していただきたいと思います。どういう役をやっているかという、釧路市地域学校協働本部というのがあります。簡単にいいますと、地

域で子供を育てていきたいと思いますという組織です。ただ、釧路市から一応委嘱されて任務を得ておりますので、自分たちが好きなように子供たちに何かをやっていくということではなくて、いろいろなことを踏まえながら地域での子供たちを育てましょうという組織です。

いま話したように自分たちで、地域で子供たちを育てるということですが、内容については右側にありますように、社会に開かれた学校教育と一緒に、こんなことをしたらいいのでは、あんなことをしたらいいのではと、目標をひとつにしてやっていくことが大原則です。

左側に、皆さんも十分ご承知だと思っておりますが、社会背景とか、地域の実態とかで大変困難さを増しているのです。早い話、こういう中で生きていくのには、今までは学校である程度完結して、なんとか社会に送り出していたのですが、学校教育のままで到底太刀打ちできない社会情勢になっていることを踏まえて、協力してやれることをやっていこうと地域学校協働本部の組織が生まれたのです。

特に社会的背景といっても、20年も30年前から変化が激しいことは耳にきてきているのですが、ここに来てすごいのですよね。もう、急激なんているものでない、これからさらに変化していく状況なのです。

そういった中で、私どもが子供たちを育てるにあたって、どういう資質・能力を育てていかなければいけないか。今の生きていくための資質・能力が、さらに、この後もどんどん変わっていく状況だと思うのです。そういった中で、いま皆さんが第一線でお仕事されている中で、従業員の方とか一緒にやっている方には、こういう人が欲しい、ああいう人が欲しいと、こうなってくればいいのか、いろいろあると思うのです。そこに近づけていくためには、学校ではいま何をしなければいいのか。われわれ地域教育としては何をしなければいいのかを、歩調を合わせてやっていきたいと思いますということなのです。

例えば、資質・能力で言いますと、こんなようなものがとても重要と考えております。まず、なんといってもこの未来を生き抜く、一言で言うと、どんな状況でも生き抜いていく資質・能力が必要。この未来をどんなときでも生き抜く資質・能力とはどんなものなのか、いま何を鍛えなければいけないのか、なのです。

周りに4つ書いておりますけれども、全ては生き抜いていく知恵ということで、右上からいきますと、「新しい発想力」は必須です。それから、多様化の時代でいろんなことを受け入れる。頑固さだけではなくて、「いろんなことを受け入れる力」です。皆さん既にやられている「新しい産業を生み出す力」です。そして地域のために行動できる、「この地域のために行動で

きる力」が地域教育。学校教育だけではやりきれないところではないかな。私どもの力を発揮していかなければいけないところなのです。

具体的に今日紹介させていただいている地域学校協働本部の右の下に推進員ということで私とか、この後、話してもらう大越さんがそこに所属しております。

その上にあるコミュニティスクールとは何かというと、学校に学校運営協議会があって、校長先生が基本的に学校運営を進めていきますが、それについて「もっとこんなふうにしたらいいいのでは」「あんなふうにしたらいいいのでは」と学校といろいろなことで話し合いをする。先ほど言った資質・能力もそうなのです。「やっぱり力がこれから必要だよ」と言って、そして学校と一緒にやるのがコミュニティスクールです。ここに地域の重鎮たちに集まっていただいて、いろんなことを話し合うのがこの右上のコミュニティスクールなのです。

そこで決まったことを具体的にやっていきたいと思いますという実働部隊なのです。「ここにこういう人たちがいる」「こういう人がいるから、この人を学校に派遣して、子供たちにやってもらえばいいじゃない」「こういう所に連れて行ったらいいのでは」ということの実例が鳥取小学校にありますので、あとでそれを聞いていただきたいと思うのです。そこで実際に実働するのが地域学校協働本部で、われわれが今取り組んでいることなのです。

子供たちということですが、基本的には、この学校を核とした地域作りということなのです。学校のためにやっているのかという話なのですが、とどのつまりは、地域作りということで、これがメインなのです。

例えば、小さい町で、小中学校の義務教育がなくなったとき、学校なくなったら、そこに住む人がいなくなって、いずれその町は衰えていくことは目に見えていますよね。一番顕著だったのは東日本大震災の後、復興作業をやったときに、学校の復興を中心に進めた町が先に復興したというのが間違いのない事実だったらしいです。いかに学校を中核として進めていくことで地域が活性化されるのです。

釧路はまだそんなに危機的な意識はないかもしれませんが、町に高校が1つしかない町は、その高校の存続で必死なのです。町から高校がなくなると大きな打撃を受けるということで、その町教育委員会、町をあげて高校の存続です。具体的にいうと募集で23を割ってしまうと廃校の対象になるから、何とかそうならないようにと町をあげて一生懸命取り組んでいます。いかに学校を中核として進めることで町自体が生き延びるというようなところが大きいと思います。

いま話したように地域と連携することで、そこを何と

かやっっていこうと。具体的にはこのようにどんな子供たちを育てるのかという共通の目標を持ちながら進めていくことなのです。

だから、小学校で何をやっていくかということで、課題は非常に多いのですけれども、学校だけではやりきれないということで、地域の推進員さんたちに大変お世話になって、学校運営に協力していただいているのです。

具体的にどういう動きをしていくかというと、右側に課題ビジョンの共有と。コミュニティスクール等で、ビジョンを共有するわけです。「こういう子供に育てたいね」とか、学校として緊急な課題があって「これ何とかしたい」と言ったら、それが課題になるのです。そこで、課題をやることを確認して、話し合いだけでなく、具体的に「こうやって行きましょう」というところまでいくのです。これをやるところがわれわれの地域学校協働本部なので、この後、鳥取小学校の実践例を聞いていただきますが、こういう流れで実践が行われています。

そして、成功体験で「子供たち、こんなふうによかったよ」「あんなことで良かったよ」と話をして、また情報の共有で上に行き、「今度、ここにこういう人たちがいるから」「ここにこういうことを先生方も願っているから」とか情報共有して、また次年度につながると、このサイクルがうまく回っていくことによって子供たち、何とか育っていけばいいなということです。簡単にまとめますと、地域学校協働本部はそういうところなのです。この後、大越さんから実際には鳥取小学校がトップクラスで進んでいる実践ですので、どうぞお話を聞いていただければと思います。

(拍手)

釧路市地域学校協働本部

鳥取小地域学校協働活動推進員 大越 祥子様



鳥取小学校地域活動推進員の大越と申します。本日は大変貴重な場をいただきましてありがとうございます。

まず、私がなぜ推進員になったかですけど、元々は子供が入学したことからPTAの役員とか、図書ボランティアとかで活動していたこと、あとは民生委員と保護司などもしておりましたので、「学校と地域のことをとてもよく知っているのだから、あなたがやりなさい」と、今お話をいただいた森先生からご指名をいただいてこの推進員になったのがきっかけになっています。

簡単に鳥取小学校の活動をざっとご紹介いたします。この写真が毎年入学した1年生に向けて、鳥取小学

校では見守り、図書、花、鳥取しゃんしゃん傘の傘を修理する傘ボランティアがありまして、このボランティアさんたちに来ていただいています。連絡調整などをして、昔はたくさん人数が来ていたのですが、コロナの関係があって今制限があるのですが、このような形で来てもらっています。

子供たちに「段飾りの5月人形を見たことない」と言われたので、地域の方で持っていた方で「どうしようかなと困っていた」という方いたので、これを寄贈していただいてボランティアさんが飾っています。これは、子供たちに「夜になると、なんか怖い」と言われるので、コロナのときはマスクを着けてあげたりして少し楽しませて見てもらっていました。

これが鳥取の伝統のシャンシャン傘の修理している傘ボランティアの活動です。今年も6月20日に運動会があるので、いま修理がピークになっているのです。和紙でできている傘なので、とっても破れやすいので、頑張って修理をしております。左の真ん中にいる男性は校長先生なのですが、「ぜひ一緒に修理させてください」ということでこの日は一緒に修理をしています。

これは、毎年春に交通安全運動が行われています。交通安全課の方が来て学校で交通安全の指導をしてくれているのですが、実際にこういう歩道に出たりするものですから、学校側から「見守りの協力していただく人はいないですか」ということで、見守り隊や地域の方が所々に立って協力をしてくださいました。

これが傘踊りです。毎年、傘踊り保存会の方に傘踊りの指導に来ていただいて、このように踊る練習を毎回しております。

これが毎年3年生と4年生が社会科の授業の一環として実際にスーパーマーケットに行き、スーパーの裏側の仕事を見たり体験したりさせたいということで、先生の依頼を受けて、これはスーパーアークス鳥取店に行き、中の様子、お店の様子と裏の様子を見せてもらっております。

これが毎年、7月頃にしている体力測定です。1年生から3年生までの子供たちに5つぐらいの競技があるのですが、それに、計測する係がどうしても必要なのです。右側のが「反復横跳び」ですけど、これを測定する時に一気に10何人もやるので、その回数を数える人を募集しているのです。今の子供、反復横跳びができないのです。うまく真ん中でリズムが取れないのかバラバラになってしまうので、そこを教えるところからスタートして、実際に計測をするということを始めております。

私、保護司をしていると話しましたが、毎年ラジオ体操のときをお願いをして、この社会を明るくする運動という運動と一緒にさせていただいて、このようにティッシュ配りなどもしています。

そして、鳥取小学校はPTAの活動も大変活発になっていて、これにもコミュニティスクールの影響が大きくあります。コミュニティスクールと協力することによって、たくさんの子供たちを楽しませる企画ができています。これが学校キャンプ、毎年始業式が終わった週の土曜日と日曜日に行っています。3年生までが日帰り、4年生以上の希望者が1泊するのです。一番左上、テントを立てているのですが、テントを立てるところからスタートして、実際に校長先生がクイズ大会をしてくれたりします。たくさんのお母さん方が手伝いに来るのですが、手伝いに来たら何していいかわからないというお母さん方もたくさんいるので、もう決めています。このお母さん方を取りまとめる人はこの人、運営する人はこの人、と決めたりして、私もお母さん方を取りまとめる係をしています。「あなた、これやってください」「これやってください」ということをしながら運営をしています。

右下の写真が夜、肝試しをする子供たちです。実際に真言寺の住職さんが元々PTAの役員をされていた方で、本物のお坊さんがお祓いをして、それから肝試しをしています。これも毎年来ていただいています。鳥取神社祭が毎年9月13・14・15日とあるのですが、この神社祭にも深く鳥取小学校も関わっています。

元々、木下宮司も鳥取小学校でたくさんいろんな活動をしていただいているのと同じように、ここでもPTAのお父さん方が準備から片付けまでしています。今年「ブックフェスティバル」が鳥取小学校で開かれました。読み聞かせのボランティアさんが読み聞かせをしています。床に本がいっぱいバーっとなっていて、子供たちがそれから好きな本を借りることができるのです。迷っている子にボランティアさんたちが「こんな本あるよ」と言ってお薦めしたりしています。

これが鳥取神社祭で行われている子供相撲です。奥のほうに法被着ているのが6年生です。6年生の子たちが出場するのをお神輿が担ぎ終わった子供たちが応援に来ている様子です。右側の写真にあるのですが、行司は必ず教頭先生がすることになっていて、子供たちもとっても喜んでおります。

これが鳥取神社祭の写真なのです。鳥取神社から星が浦方面を回って、鳥取小学校の裏の公園まで10キロほどの道のりなのですが、これを子供たちが授業の一環として担ぎます。これがコミュニティスクールの授業のひとつとして取り組みを始めたところです。

私自身が元々、子供神輿の手伝いで鳥取神社に行ったこともあったことから実際に子供たちに授業で担がせてみよう。普段通ることのできない大通りを歩いて行くのです。沿道の人たちから「頑張って」と声援をしてもらったりして地域の方の大切さ、あと休憩する公園で食べ物、飲み物などを振る舞ってもらって、それをいただくことによって地域の方たちの温かさ、地

域愛というのを感じることができるお祭りだなと思っています。

これが図書ボランティアの活動になるのです。ただ本を借りるのではちょっと寂しい。いま釧路市も読書の活動に力を入れていて、少しでも子供たちに本を借りに来てもらいたいということで、ちょうどハロウィンの日だったのでハロウィン貸し出しをしております。

これが鳥取小学校PTAバザーの様子です。お父さん方、親父会が20人から30人ぐらいいるのです。なんと朝4時に集合して炭を起こして焼き鳥を焼いて、売っています。ステージ上にいるのが右からPTA会長、真ん中が教頭先生、一番左が親父会の会長です。ここがカラオケ大会でステージを盛り上げてくれて、手前に中学生たちが応援に来てくれていて、自主的にバックダンサーを務めてくれて、大変盛り上がっています。

茶道教室を毎年6年生が行っているのです。いつも教育委員会から講師を呼んでいたということで講師代もかかったので「誰か、いませんか」と言われたので、町内会で茶道教室をしている先生にお願いして、毎年、子供たちにお茶を点てもらっています。お茶を点るのが難しいみたいなので苦戦しながらも自分たちでお茶を点てていただいています。

これが鳥取学と言います。鳥取小学校に博物館があります。鳥取の歴史を子供たちが学ぶ、自分たちで鳥取小学校、鳥取に関わるもののテーマをひとつ決めて、それを実践する授業をしています。この日は地域の方に「昔の給食、どんなのがあったのですか」「どんなことをしていたのですか」という質問をしている授業です。

これ、見たことある顔、いらっしゃいませんか。右側の写真に荒井会長がいらっしゃいます。去年、先生方から「どうしても子供たちにお仕事体験をさせてあげたい」という思いがあって、初めてジョブカフェを開きました。九つぐらい会社の方に来ていただきました。左側が信金さんです。お金のお札の数え方を教えてもらっています。右側が荒井先生にいろいろな話をいただいています。子供たちにとってもお仕事を学ぶ良い機会になって、これからも実践してほしいとなっていて、コミュニティスクールが中心となって行っております。

そして春に自己紹介をした後に、秋に「感謝の集い」としてボランティアさんたちに、児童会から感謝の手紙が送られるという活動しております。

これが、2年生が毎年行う町探検です。いろいろなお店に行って、お仕事について聞く授業を行っています。幸い、鳥取にはいろんな魅力的なお店がたくさんあります。右側はマック、そして左側がローソンで、あとはスターバックスに行ったり、はま寿司に行ったり、

いろんなお店に行って実際にお仕事の体験をすることができています。これもいろいろ連絡調整とか付き添いのボランティアさんにもお願いして、子供たちが楽しく安全に活動できるようにしております。

左側が算数検定、右側が漢字検定です。検定の運営も鳥取小学校のほうでしております。

その他にも中学校に傘修理に行っています。冬は活動が終わったリンクを使って氷上運動会をしています。

アイスクャンドルもPTAの活動とコミュニティスクールが合体して行っています。右側のほうが温かいラーメンや飲み物の提供を地域の方がしてくれています。

こういった形で鳥取小学校が様々な活動をしています。子供たちが学校生活の中で、地域の方に助けられたという思いが残るような活動を目指して活動しております。

大変貴重な時間、ありがとうございました。

会長謝辞

森様、大越様、貴重なお話ありがとうございました。同じ釧路市内の小学校のコミュニティスクールなどでも、これだけバラエティーに富んだ活動をされているのですね。私は釧路町なので、こういった事例を釧路町もそうですし、釧路市内の他の学校でも共有していただいて、よりもっともっと他の小学校の生徒も同じような活動できればいいかなと思っています。

ジョブカフェ、お声があったら私もまたぜひ参加させていただきたいと思います。

本当に本日はどうもありがとうございました。

本日のニコニコ献金

- 本間 弘人君 入会して1年が経ちました。今後とも宜しくお願い致します。
- 池田 一己君 申し訳ございません。本日欠席いたします。
- 佐々木俊和君 娘の就職が決まりました。25年間の思い出がよみがえり、ほっとしています。
- 工藤 彦夫君 先週のクラブアッセンブリー、ありがとうございました。
- 横田 英喜君 明日、国際大会の行われる台北へ荒井会長のお供として行って参ります。
- 荒井 剛君 国際大会へ出席するため台湾に行って参ります。ちなみに来年はバルセロナです。

今年度累計 457,420 円